

平成 31 年コウナゴ漁況の見通し

平成 31 年 2 月 28 日
福島県水産海洋研究センター

1 漁獲量予測

平成 31 年の県全体のコウナゴ漁況は、(震災前と同様の操業が行われると仮定した場合)「豊漁(2,750 トン以上)」と予測されます。

予測の根拠

震災前 15 年間のデータで解析した結果、漁獲量の変動に関する指標として下表の 3 データが抽出されました。

漁獲量とこれらの指標との関係式(重回帰式)を作成し、この式に今年のデータを当てはめて漁獲量を予測しています(図 1)。

この式による豊・不漁の的中率は、60~70% です(豊漁 2,750 トン以上、不漁 1,250 トン未満)。

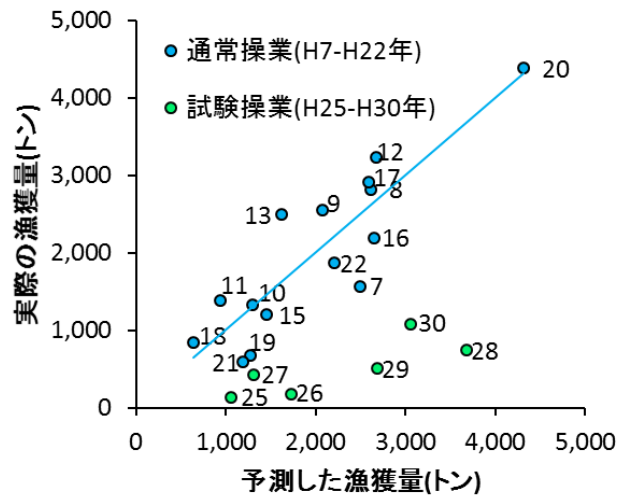


図1 コウナゴ漁獲量の予測値と実際の値

表 1 予測に用いた 3 つのデータ

12 月の新地発電所取水温 ※注	親魚(メロウド)産卵期の水温を想定	→いずれも 数値が高い ほど豊漁
2 月の相馬沖のクロロフィル a 量	ふ化・摂餌期の植物プランクトンを想定	
1 月のコウナゴ漁期前調査による採取尾数	仔魚の発生量の目安を想定	

※注) 新地発電所取水温のデータは、相馬共同火力発電株式会社の御厚意により利用させて頂いたものです。

参考

昨年度のコウナゴ漁況予測では、豊漁(2,750 トン以上)と予測され、試験操業によるコウナゴ水揚げ量は 1,076 トンでした。

2 水温予測図

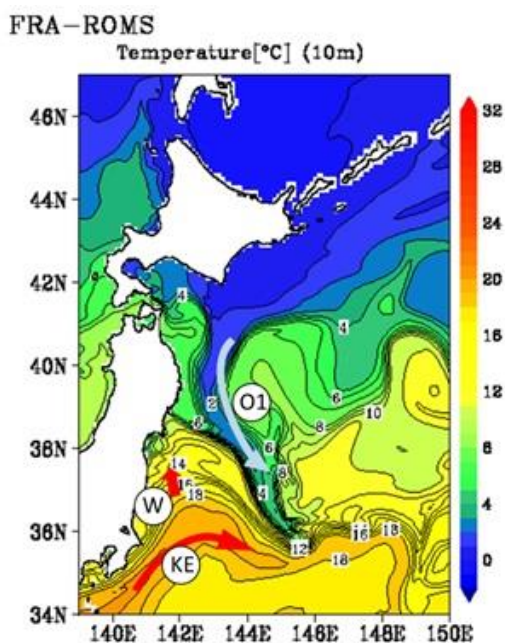


図 2-1 水温予測図(H31.3.5) 10m 深

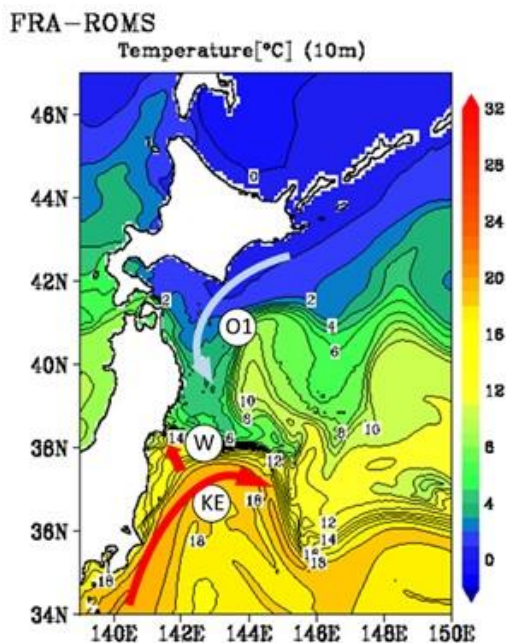


図 2-2 水温予測図(H31.4.5) 10m 深

福島県の沿岸域では、3月上旬から4月上旬にかけて、黒潮続流(KE)及び暖水域(W)の影響を受けやすく親潮第一分岐(O1)の影響は少ない模様で、水温は高めに推移する予測です。

※国立研究開発法人水産研究・教育機構が運営する「太平洋および我が国周辺の漁況予測システム(FRA-ROMS)」(<http://fm.dc.affrc.go.jp/fra-roms>)より引用

3 福島県の漁期前調査

調査船による調査は以下の表のとおりであり、平年と比較して低調となっています。

表 2 調査船による調査結果

日付	海域	調査方法	曳網時間(分)	1定点あたりの採捕尾数	平均全長(mm)
平成31年1月23日	相馬海域	丸稚ネット	5	2	4.9
平成31年2月5日	相馬海域	新丸稚ネット	10	4.5	5.5
平成31年2月8日	相馬海域	丸稚ネット	5	0	-
平成31年2月14日	いわき海域	新丸稚ネット	10	0	-
平成31年2月15日	富岡海域	新丸稚ネット	10	0.5	5
平成31年2月15日	いわき海域	中層トロール	10	0	-
平成31年2月25日	相馬海域	中層トロール	10	0.8	20.9

4 他県の漁期前調査

各県による調査(ボンゴネット・カイトネット)は以下のとおりであり、平年と比較して低調となっています。

- ・宮城県(仙台湾)の1月30日の調査は、0.09尾/m³となっています(平年値 1.72尾/m³)。
- ・愛知県(伊勢湾・三河湾)の2月22日の調査は、0尾/m²となっています(平年値不明)。
- ・兵庫県(播磨灘・大阪湾)の1月18,21,22日の調査は、1.9尾/m²(播磨灘)・2.0尾/m²(大阪湾)となっています(播磨灘平年値 15.9尾/m²、大阪湾平年値 21.3尾/m²)。